



神奈川教育署名提出集会2022 12月2日(金)神奈川県庁新庁舎

ゆきとどいた教育をすすめる神奈川県実行委員会は、12月2日(金)、神奈川県庁で、県会議員への要請行動と教育署名提出集会を行いました。

ゆきとどいた教育をすすめる神奈川県実行委員会の構成団体：◆ゆきとどいた障害児教育をすすめる神奈川県民の会(神障教組)◆子どもと教育・暮らしを守る神奈川県教職員連絡協議会◆新日本婦人の会神奈川県本部◆神奈川県私学助成をすすめる会(神奈川県私教連/神奈川県父母懇談会/幼稚園支部)◆30人学級をめざす鎌倉の会◆30人学級を実現させる藤沢の会◆高校連絡会

各団体は、午前、県会議員各会派を訪問。「ゆきとどいた教育の実現と私費負担軽減のため、県の教育予算を大幅に増やすこと」「教育の無償化、保護者負担軽減をさらに進めること」「過密状態にある特別支援学校について居住地に近い新たな学校建設を早期に進めること」などを要請し、議員との対話をすすめました。

午後、県庁新庁舎8階大会議室で署名提出集会を開催。各団体の代表が「今年度の署名運動の内容・運動の特徴、議員要請行動の様子」等を発言、続いて、保護者・生徒・各団体代表が県議会局局長に署名簿の手渡しと一言要請を行いました。30人学級を実現させる藤沢の会山口さんの発言を紹介します。

30人学級を実現させる藤沢の会、山口です。この署名に取り組むようになって5年くらい、3人の子どもの友だちのお母さんや近所の友だちなどに協力してもらっています。子どもの様子や神奈川の教育状況を話したり、いい情報交換の機会にもなっています。

午前中の会派まわりで議員の方々にお話したことを報告します。

小4息子の小学校では、音楽教員がいないため、1学期の音楽の成績がつかなかったり、教員の負担軽減のためか、全学年の2学期の成績表はなしとお知らせがありました。タブレット端末利用について、小1の担任をしている教員は「ひらがなもアルファベットもわからない子どもたちのタブレット立ち上げに時間がかかるため、苦痛を感じている。」また、子どもにタブレット利用させたくない保護者は、小学校から個別対応はできないと言われ「タブレットの時間は廊下で本を読んでいる」「同じ場所においてほしくないの、NPO法人を立ち上げ、居場所を作った」と言います。

ウクライナ危機や円安の影響での物価高騰で給食無償化を求める声も聞いています。「小学生2人に教材費などを請求されたら、1ヶ月1万円を超えることもありつらい。」また、神奈川県全体が中学校給食実施率が低く、藤沢市のように選択制給食では無償化を求めることすらできません。

コロナ禍が続き、生活の中にたくさんの制限があり、子どもたちがかわいそうです。子どもたちが子どもらしくないと感じることがあり、子どもたちの未来がとても心配です。

神奈川県は未来を生きる子どもたちより、大型開発がそんなに大切でしょうか。子どもたち一人ひとりが大切にされるよう教育に予算をつけ、ここに住み続けたい、子育てしやすいと思える、やさしい神奈川県になってほしいです。



発言する山口さん



(左)署名活動の報告をする高校生

(右)藤沢の署名簿を提出し一言要請をする加藤さん
藤沢分は2605筆

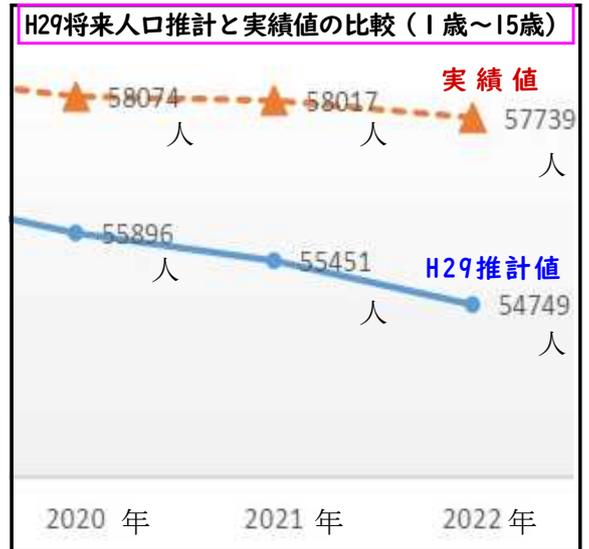


学校適正規模・適正配置検討委員会

実施計画(素案)の公表時期は2023年6月に延期

基本方針では「平成29(2017)年度 将来人口推計値」を使用していますが、その推定値と過去8年間の実績値では市全体で令和3(2021)年度は4.6%、令和4(2022)年度は5.5%と大きな乖離があり、乖離幅も広がっていることが判明。検討委員会は、2040年(令和22年)時点の児童生徒数推計の精度を上げるため「令和4(2022)年度の将来人口推計に基づく児童生徒数推計を適用させた実施計画(素案)にすべき」として、2022年12月としていた実施計画の公表時期を翌2023年6月に延期しました。

※右のグラフは「H29将来人口推計と実績値の比較(1歳~15歳)」の2020年以降を抽出して掲載。青線はH29将来推計藤沢市、オレンジ線は実績藤沢市。実績は推計より多い。



藤沢市アンケート調査結果

藤沢市教育委員会は、2022年9月、市立小中学校保護者、教職員、未就学児保護者を対象にアンケート調査を実施。

回答方法：Googleアンケートフォームまたは紙面

保護者回答者数：小学校5167人

中学校2437人

教職員回答者数：小学校391人、中学校216人

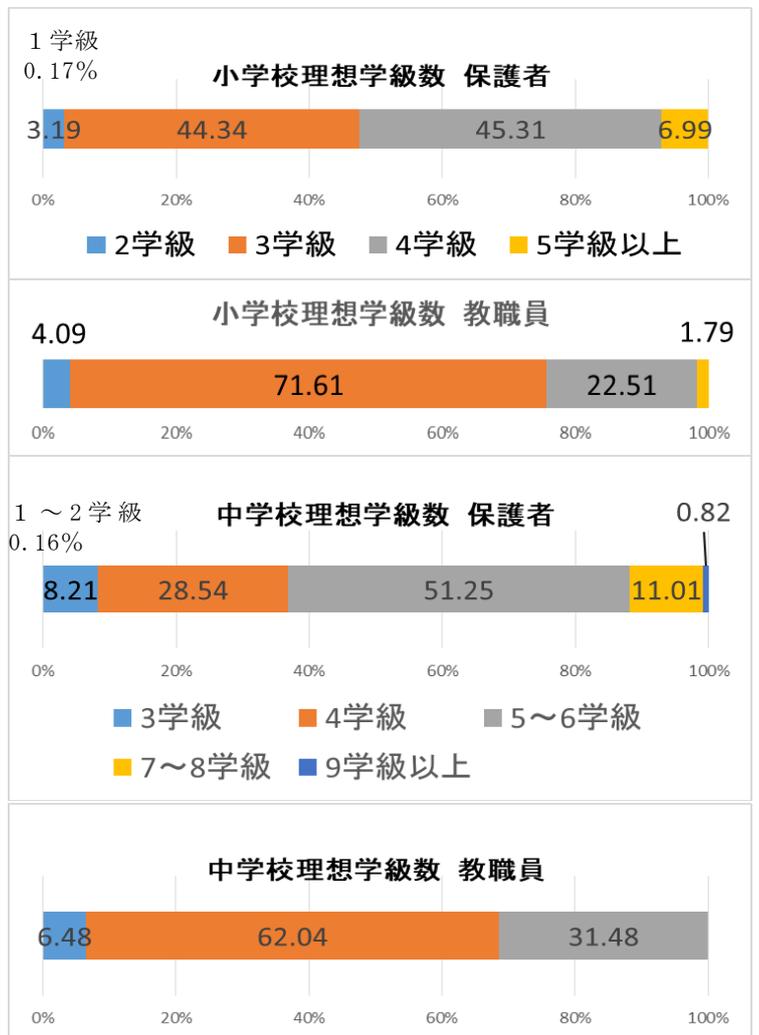
右のグラフは、アンケートにある「あなたは小学校(中学校)は1学年あたり、何クラスが理想だと思いますか？」という問いに対する回答結果を当会がグラフ化したものです。

小学校学級数	中学校学級数	状態
1~5学級	1~2学級	過小規模
6~11学級	3~11学級	小規模
12~24学級	12~24学級	適正規模
25~30学級	25~30学級	大規模
31学級~	31学級~	過大規模

上の表は、藤沢市の学級規模の基準です。適正規模を小学校・中学校ともに12~24学級としています。その根拠、妥当性はどこにあるのでしょうか。経費第一ではなく、子どもが第一であるべきです。今後の動きに注視が必要です。

※アンケート結果は教育委員会のホームページで公開されています。

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kyouiku/tekiseiquestionnaire.html>



みんなの教育・ふじさわネット 2023年度学習会と総会

2023年1月29日(日) 13:30~15:50 藤沢市役所5F・市民利用会議室3

◆学習会 「子どもの育ち、家庭に責任?!」お話：杉本克彦さん(元・小学校教員)

◆総会